



風説箱の技抄

伊5  
2594  
7

藤

七



明 狩 5  
2571  
卷 7

明 狩 5  
2574  
卷 7

権遺業の技折巻之貳

目録

一 長州廣山倚天王山左ノ山の権遺業ノ事

一 長州城ノ事

一 長州藩ノ事

一 藩政ノ事

一 藩政ノ事





志秋の中葉山城を去る富守の先  
 づゝ居る長清人ねれ五百七十九人  
 のものみちお侍にお供へ共月よのとき  
 ちよ強きしりし者も三様の精進をかや  
 かゝりしるゝも相まのゝゝ乃の  
 小大各おりゝゝもあひも海ゝりつを  
 一跡ゝ乃ぞんよのふゆゑ活尾ヶ崎  
 表松平を並はる友法修清の場下よ

了は是のころ方の篇に事なりとも  
方は何れも之を修打しりとも  
志におおのちのちを定まらざるも  
年数も及ん年ハ終るも是れ  
中半あり

右に後述機付く通りおぼ  
流しは之を甚しむるも  
右に後述機付く通りおぼ  
流しは之を甚しむるも

助考は改定採りて  
つては修中納言殿に  
杜坂清若年寄の  
せり成りぬ  
杉平取後名  
是れは  
七陸分  
用念に付る

大坂城門の御通達を子玉遠く京橋に  
馬車より中老をお集りてお救毎日々  
人とは漸く多しお救を相集りて  
お格柱の太極を柱掛金今お救  
働りて一打とすべしとの御通達  
お救の御通達を京橋に御通達  
松平水尾の御通達  
御通達を御通達

何事か急ぐ御通達を御通達  
お救山侍の御通達を御通達  
一先門を御通達を御通達  
お救の御通達を御通達  
お救の御通達を御通達  
お救の御通達を御通達  
お救の御通達を御通達  
お救の御通達を御通達  
お救の御通達を御通達  
お救の御通達を御通達

中切にお成り也一 此後言 願也  
爲し中切つてさすりてを京部の中及  
たは仲見方板表を而くも分てい  
私病も長て有るは難斗り身若瀬  
念量書重よそ十箇夜を至り方板  
織代、は後急出流を有こまの  
と玉法大也一七火急とて出流を有  
而十九日お初る多り仲見表と復有る

其相高よ、水城月分のら世を二重打案  
りゆ一巻くお系も字方板表お法清池清  
のんく我系も字用と一 右角清花よハ  
火繩を付陰のさやを打割 書方くお立  
四城月長く京部一ハ清池場へお階ハ  
振と四通こ  
お牛と夜一過にお成十九日お初りり  
お系とゆゆ一法大名お系を以て 少老人

杉之川杉多きて杉柵産成其杉年之至  
近頃杉柵杉之小樹之杉多し杉柵杉  
之杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
御定書杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵

杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵

杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵

杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵

杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵  
杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵杉柵

但し陸を被陸員と吹立川有孫定よ  
之類に有孫のありしこ

概に宮田と

小笠原幸松丸振

松平能登守振

小堀指廣氏振

柳生世之助振

江戸寄り川傳向いの方々山物屋よて孫

きーの山田念岩堂なり

左より丹後節中一系路及扇形振

止りみよ系振の通り七百と方振



一 元禄元年秋の以七月十九日ありしより  
山崎、楠よりり、佐々木長清人

福原執後 國貞信濃 益田右馬弁  
其外、多し、救はれし、且、唐宗、志、進、言、より  
沖野、也、

志、原、書、は、少、名、を、在、山、州、の、倉、作、城、を  
招、平、形、後、馬、殿、之、降、く、邊、答、を、お、持、来、り  
ん、始、ま、り、ゆ、え、や、き、ま、な、誤、傳、の、由、り、と、

多し、殿、何、角、初、之、降、く、し、り、り、何、角  
い、き、ど、ふ、の、形、勢、方、通、り、し、り、り、宗、原  
十九日、山、崎、を、長、く、人、救、り、り、と、り、  
長、く、竹、田、海、原、に、引、向、し、り、り、

一 審、よ、山、崎、より、り、り、長、根、城、を、井、原、掃、部、頭、  
りの、山、崎、信、情、の、場、下、と、り、り、事、あり、り、宗、原、  
山、崎、の、人、ち、や、降、り、す、り、り、長、清、人、は、今、け、り、り、  
面、引、り、り、し、降、中、に、降、り、り、り、り、り、り、

おろしりゆいそ水子苗山と物と源生及  
川衣く菊く付彦根子連用念有く大  
筒深し考く中付何時新勝く程難斗  
以身其用念有くく山後守つてまわく  
馬用念く作書

衣く赤く若薄く長く来くゆか何年  
なく山園ノ場而を廻り至らんをせしそ  
時彦根山陸家か士らん人死か言え孫か

何きの山彦中よて何山山通及山  
身外付長く山彦らん殺く山通何何  
りく山外物なるをく殺く殺何何く殺  
念有く山山山

長薄く山彦山彦山彦山彦山彦山彦  
山彦山彦山彦山彦山彦山彦山彦山彦  
山彦山彦山彦山彦山彦山彦山彦山彦  
山彦山彦山彦山彦山彦山彦山彦山彦



又 物産形々 靡とりふ

形々たるがごとく 物産形々たるがごとく 靡とりふ

中 形々たるがごとく 靡とりふ

多ん 物産形々たるがごとく 靡とりふ

是れ 今日 存津 あり 西云 あり 政事 あり

せし こと あり 西通 あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

年 あり あり あり あり あり あり あり あり

後 あり あり あり あり あり あり あり あり

若 あり あり あり あり あり あり あり あり

ゆ あり あり あり あり あり あり あり あり

と あり あり あり あり あり あり あり あり

衆 あり あり あり あり あり あり あり あり

人 あり あり あり あり あり あり あり あり

と あり あり あり あり あり あり あり あり

これ あり あり あり あり あり あり あり あり

彦根の處へ若藩人の勇士に人あり  
けし戸田の跡をうり小崗より換打を  
けし系統へ相立し若藩人百四十人  
謀係をうり制しお成

御禁願召をうり打赤の一ッ搦搦と年  
敵にお成し時とけし一軍の比と

是又竹田海及御立場の敵い長彦  
戸のら藤の若九ら跡をうり二陣中人

怪敵一人に死一人に人ありと成

けし若藩人中七十人斗お成りつ成  
や一軍を圍うけ敵討ちて去之みの七軍  
廻一ッ搦の由をそわく一軍ありてまか  
はしつ一搦中しお成りお成り

一侍の表若藩人を討ちてはしつ侍  
上分法同階召をうりしはしつ侍  
水後召をうりしはしつ侍

一 提督統一 倭人の所を一所とて境  
先にお成。

右の邊も倭人の所を一所とて境を  
火矢の毒珠を去り初くり此を幣の  
たふすなりなり

又の邊も長藩人の所を一所とて  
入十三ヶ所と打合有る

知行と別番長藩人の所を一所とて人

敷百廿一人と云御所とて乱入

所は寄る御所の御所のとき此の内を

入法能きまゝなり打合一か御所法の

りのまゝなるものありけり一づの御所

是を御所とて一人一人二人と別れ

是く云押へ御所も何れ御所換の御所

ありけり御所七人一人と御所あり御所

御所八人御所

松平忠清も度すに一方の心物もあのお  
方と云ふり後後を以て一兵部と云へ  
西下親有しはもいさうも兵部ひらき  
旅及肥後ち度三志忠を以て形始人  
兵部と云ふすんを方の中にあましむお  
果し若の竹くかき度西下親有しは  
川形又西下親有しは形をお被しはせよ  
とたふくま修制しは時倉持方の心

百姓に保し一年一圓の心と農の心  
心とて討死はし一年一是毒なる若の  
若の心と一圓の心と一圓の心と  
の心何程の心とやゆらんと心のみがま  
倉持の心と心と心と心と心と心と  
心と心と心と心と心と心と心と心と  
心と心と心と心と心と心と心と心と  
心と心と心と心と心と心と心と心と  
心と心と心と心と心と心と心と心と  
心と心と心と心と心と心と心と心と





松平内藏頭 松平お松守 戸田安正  
松平修理進 長く湯島清の探前  
お成に水也の長藩人長く徳をく松子  
近江景時藩人内武平今清新なる  
すのみは忠有之すは有年とと忠也が長く  
お松守の救長きけり景清殿の次ふ  
お成言責の湯島と清の忠也と一お  
お松守と一をけり忠也のたお松守に送

城に加賀守宰相様お松守と云ふ  
お松守の忠也と云ふは長藩  
七八人切殺しお成に長く忠也  
お松守  
お松守何れのお松守も忠也と云ふ  
お松守の忠也と云ふは長藩  
お松守の忠也と云ふは長藩  
お松守の忠也と云ふは長藩  
お松守の忠也と云ふは長藩  
お松守の忠也と云ふは長藩

河の中舟

舟の長く出所味も成らぬ何事と臨み居  
りて終斗と洛津堂宮へ新花を  
横にお成をえお大い居所に集むる秋の  
居安へ招平水居も居る居安打る  
れは半舟の打あしく風はまじくとあき  
初りぬを大所へ合ひ世に居るものあり二日  
二夜にわけ居る居る居る居る居る居る

と所へは同一海をたぐさぬおのそく  
ま

九所へ救修系人

七百は格居人

口は死に言は格居人也

八月十七日

玉江橋東側掘石橋  
張紳字

此交長川廣為局處有極一事  
常事也其改之者乃中言塔口以沙  
池亦乃極之以後 轉入於中一並  
有之身掛 惡事者志不乃中修令

大方方のそと来二月廿一日のそとに  
より喜交河にたふす

己日御軍艦を以て船を房も孫物初  
九時亦船を度露河仲るゝイギリス  
舟大被洋舟の中馬山日屋の山をいふ  
船長が(名)を張り同屋の船地を大といふ

舟人多くお果り舟船孫引居るお果  
山内にお成り中より順動九一所のそと  
船房洋河にたふす

二月廿一日

七月廿一日夜津達

因別名山城之 松平相持書友

化州府城

松平二河守

信濃福城

河部主斗

河州德島城

松平河波守

肥後熊本城

細川轉守

石州淡田城

松平左衛門守

播磨姫路城

酒井雅樂守

雲州松尾城

松平市郎守

信濃高城

松平信常守

薩州唐島城

松平忠清守

豊前小倉城

小倉宗大膳守

石州津和野城

長井清信守

播州石屋城

松平吉成守

町臺野城

服部清隆守

美濃赤松城

奥平忠勝守

濃州古松城

松平清信守

薩前麻里城

松平修理守

豫初都郵為城主 任達在江口及  
 龍後久為軍 有子中務備及  
 侍中招出城主 板倉園房及  
 古州古和城主 松平古作及  
 豫初招出城主 松平隆波及  
 龍亦福恩城主 寺平英清及

長州藩士之口以日初版有之報少實年較

古思七携一七集三志名礼之付可  
 引拂一福京秋后志少人救依人  
 初取之民穆池子年一志有出池治初得以報  
 初取之民報志少心請備力政以少子梅池  
 不波靜繼之相唱國司信德益田力志少  
 引拂一終電部與人初出之長之梅而之能  
 書以出出思少有古秋八月  
 初取之民之報中之一志感之但遊之報取

新刊の糸巻部

新刊の糸巻部 糸巻部 糸巻部

糸巻部 糸巻部 糸巻部

糸巻部 糸巻部 糸巻部

糸巻部 糸巻部 糸巻部

糸巻部 糸巻部 糸巻部

糸巻部 糸巻部 糸巻部

糸巻部 糸巻部 糸巻部

糸巻部 糸巻部 糸巻部

糸巻部 糸巻部 糸巻部

糸巻部 糸巻部 糸巻部

糸巻部 糸巻部 糸巻部

糸巻部 糸巻部 糸巻部

長州分助野書

勅書に鑑むるに  
心何れも在りて  
為りて  
至る有りて  
殊沙羅  
服方  
介



付之く暇も多しゆり又清くも書きたり  
御付留是之山探極不守者

朝廷西一大事と申すゆり

園而殿り遊来月仕れ定之内以探子と申  
伺りて之方一と難心故義の在之也一清  
陸亦上之清書清仕友寸調而己亦申  
一統御深く亦業仕りあるて一は時辰深く  
御京東之成下二機成を運 清信類

与力有共外法事一由平為思治也  
作付り孫守類と云

京都之て張紙

松平現法也

以者因陸松島不船道等計人書云

欲盜也 泉心力 激不能遂 意者出志  
於連藏 薩戶 有力 薩戶 忍 朝廷 泉  
威 不知 其實 為 薩戶 之 集 忍 亦 長 志  
神人 共 思 沙 之 加 方 降 去 下 之 天 刑 考 之

言八月

義勇

軍士

